

Japan Patent Office (JP)

UTILITY MODEL REGISTRATION GAZETTE

Utility Model Registration No. 3033643

Registration Date: November 6, 1996

Issue Date: January 28, 1997

Int. Cl. A61N 2/08

Written reputation required or not: Not requested.

Utility Model Application No. 8-6909

Application Date: July 17, 1996

Utility Model Registrant: Shigeru Wada (ID No. 591274370)

Inventor: Shigeru Wada

Attorney: F. Kamata

CLAIMS

[Utility model registration claim]

[Claim 1] It places in a fixed position so that two magnets may be contacted by pressing in a carotid artery among the above, when it curves, it consists of four magnets fixed to a ring with the elasticity which the ends have countered, and its ring and the above-mentioned ring is attached in the circumference of the neck of a human body, it places in a fixed position so that it may contact by pressing in the position where only predetermined distance separated the two remaining magnets from the center section of the neck toward both sides, and it is a connection means about the both ends of the above-mentioned ring. The magnetic use healthy implement which connected and enabled regulation of the size of the above-mentioned ring by the connection means.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3033643号

(45) 発行日 平成9年(1997)1月28日

(24) 登録日 平成8年(1996)11月6日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 N 2/08

識別記号

片内整理番号

P 1

A 6 1 N 1/42

技術表示箇所

H

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号

実願平8-6309

(22) 出願日

平成8年(1996)7月17日

(73) 実用新案権者 591274370

和田 茂

大阪府大阪市西区江戸堀3丁目1番32-604号

(72) 考案者 和田 茂

大阪市西区江戸堀3丁目1番32-604号

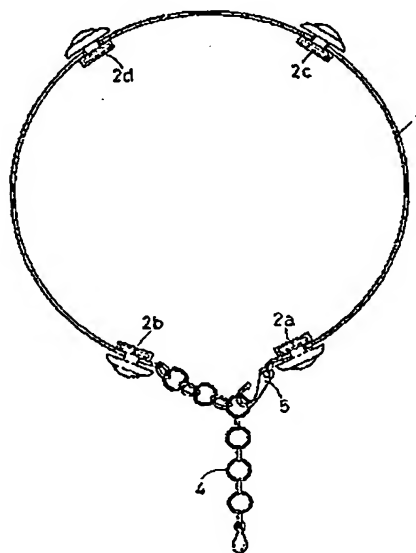
(74) 代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

(54) 【考案の名称】 磁気利用健康具

(57) 【要約】

【課題】 部品点数を減らして構造の単純化を図ると共に、磁石が所定のツボからずれるのを防止し、かつ、首回りに磁石を確実に保持する磁気利用健康具を提供することである。

【解決手段】 湾曲し、その両端が対向している弾性のあるリング1と、そのリングに固定された4個の磁石2a～2dよりなり、リング1を人体の首回りに取付けたとき、磁石2a、2bを頸動脈に押接するように配置し、磁石2c、2dを首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置に押接するように配置し、リング1の両端部を連結手段により連結し、その連結手段によりリング1の大きさを調節可能にする。



(2)

2

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 湾曲し、その両端が対向している弾性のあるリングと、そのリングに固定された4個の磁石よりなり、上記リングを人体の首回りに取付けたとき、上記のうち2個の磁石を頸動脈に接触するように固定配置し、残りの2個の磁石を首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置に接触するように固定配置し、上記リングの両端部を連結手段により連結し、その連結手段により上記リングの大きさを調節可能にした磁気利用健康具。

【図面の簡単な説明】

【図1】 磁気利用健康具の実施形態の一例を示す平面図

【図2】 図1の一部拡大断面図

【図3】 図1の磁石の他の取付け形態を示す一部拡大断面図

【図4】 図1の磁気利用健康具の使用状態を示す斜視図

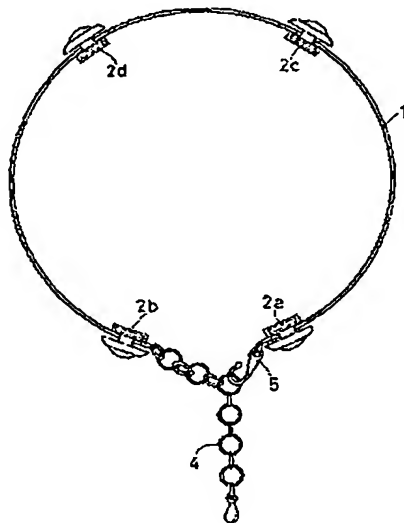
【図5】 磁気利用健康具の実施形態の他の例を示す平面図

【図6】 従来例の磁気利用健康具を示す平面図

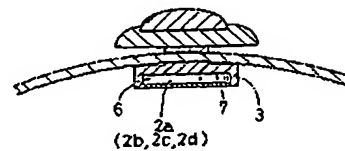
【符号の説明】

- *1 リング
- 2a, 2b, 2c, 2d 磁石
- 3 容器
- 4 チェーン
- 5 止め具
- 6 凹所
- 7 蓋
- 7' 突起
- 8 凸所
- 9 孔
- 10 装飾具
- 11 リング
- 12 凹所
- 13 磁石
- 21 弾性部材
- 21a, 21b 弧状部材
- 22 磁石
- 23 バックル
- 24 容器
- 25 突起

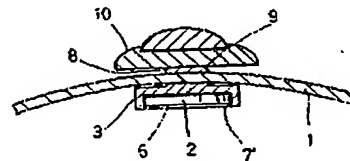
【図1】



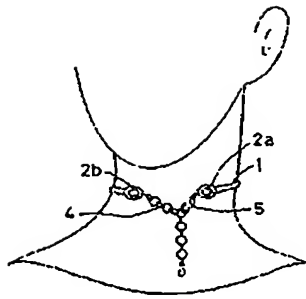
【図2】



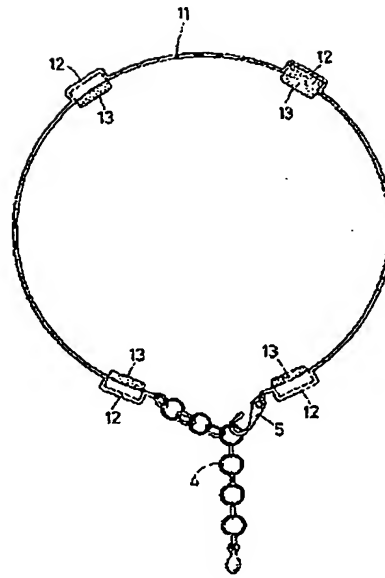
【図3】



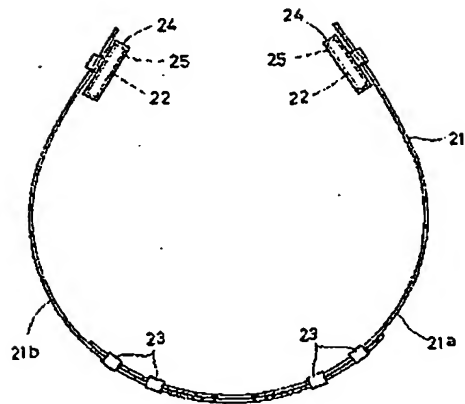
【図4】



【図5】



【図6】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

この考案は、磁気を利用した健康具、特に脳血栓等の予防や肩や首の凝り防止等に有効な磁気利用健康具に関する。

【0002】

【従来の技術】

血液の粘稠度を下げる効果を有する磁気を利用した脳血栓等の予防具として、実公平6-26288号に記載の磁気利用健康具が考えられている。

【0003】

この磁気利用健康具は、図6に示すように、人体の首回りに取り付ける湾曲し、その両端が対向している弾性部材21を2個の弧状部材21a、21bにより形成し、弾性部材21の両端部に磁石22、22をスライド自在に取り付け、各弧状部材21a、21bの内端部を互いに重複させてバックル23内にスライド可能に挿通して長さ調整可能にしてある。

【0004】

また、磁石22は容器24内に収納され、容器24の開口部内周に形成される突起25によって着脱自在に係止されている。

【0005】

この磁気利用健康具は、弧状部材を相互にスライドさせて弾性部材の内周の大きさを調節することにより、人体の首回りに合わせて磁石を頸動脈の部分に当てがうことができるので、脳血栓等の予防に一応の効果がある。

【0006】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の磁気利用健康具は、弾性部材が2個の弧状部材により形成され、しかも各弧状部材がバックルを介して連結されているので、複雑な構造になっている。

【0007】

また、スライド自在となっているので、使用時、首の動きや外力によって磁石

のいるべきツボからずれが生じやすい。

【0008】

さらに、磁石が頸動脈の部分にのみに押接され、首筋部分は押接されないので、肩や首の凝りがある場合、これらの凝りをとることができない。

【0009】

さらにまた、弾性部材の弾性力によって、2個の磁石が頸動脈の部分に押接する状態が保持されることにより、使用回数が増えると弾性力が徐々に弱まり、使用中に首回りから外れる場合があり、磁石を確実に保持できない問題があった。

【0010】

そこで、この考案の課題は、従来の磁気利用健康具より部品点数を減らして構造の単純化を図ると共に、磁石が所定のツボからずれるのを防止し、かつ、首回りに磁石を確実に保持することにより、脳血栓等の予防の効果を高め、かつ肩や首の凝りもとることである。

【0011】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するために、この考案は、湾曲し、その両端が対向している弾性のあるリングと、そのリングに固定された4個の磁石よりなり、上記リングを人体の首回りに取付けたとき、上記のうち2個の磁石を頸動脈に押接するように固定配置し、残りの2個の磁石を首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置に押接するように固定配置し、上記リングの両端部を連結手段により連結し、その連結手段により上記リングの大きさを調節可能にした構成を採用したのである。

【0012】

上記の磁気利用健康具は、湾曲し、その両端が対向している弾性のあるリングの両端部を開いて、人体の首の前側から首回りに嵌合し、首にフィットするようにリングの大きさを調節して両端部を連結手段により連結する。

【0013】

このとき、2個の磁石が頸動脈の部分に当たり、また残りの2個の磁石が首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置にあたり、その状態で磁石

が確実に保持される。

【0014】

【考案の実施の形態】

以下、この考案の実施形態を図面を参照して説明する。

【0015】

この考案にかかる磁気利用健康具は、図1に示すように、湾曲し、その両端が対向している弾性のあるリング1、そのリング1に固定された磁石2a、2b、2c、2d、並びに、リング1の両端部に設けられるチェーン4及び止め具5により構成される連結手段からなる。この連結手段により、リング1の大きさを調節しながら、磁気利用健康具が首回りに取り付けられる。なお、上記連結手段は、チェーン4と止め具5に限らず、リング1の大きさを調節可能にし、かつ、その両端部を連結できるものであればよい。

【0016】

上記磁石2a～2dは、図2のように、合成樹脂の容器3の凹所6内に収納されている。この凹所6の開口部は、エポキシ系樹脂等によりコーティング層の蓋7が設けられ、磁石2a～2dが落下するのを防止している。磁力が低下して磁石を取り出すときは、この蓋7を破って取り出せばよいが、図3に示すように、蓋7のかわりに凹所6の開口部内周に低い突起7'を形成してもよい。この場合、磁石2a～2dが突起7により係止され、容器3の凹所6内に保持される。磁石2を取り出すには、容器3の弾性を利用して、凹所6の開口部を拡げればよい。

【0017】

上記容器3の底壁に凸所8が形成されており、その凸所8には、リング1を通す孔9が設けられ、所定の位置で固定されている。その固定方法は、接着による固定や、凸所8の孔9にリング1を通した後圧縮する方法等、任意の方法を採用することができる。

【0018】

なお、上記凸所8には、装飾具10を取り付けることにより、チョーカーの如き装飾品として使用することができる。

【0019】

上記の磁気利用健康具は、リング1の両端部を開いて、人体の首の後ろ側から首回りに嵌合し、チェーン4の適宜位置に止め具5を係止させると、図4に示すように、リング1の大きさを調節しながら、首にフィットさせることができる。

【0020】

このとき、磁石2a及び2bは、首の前方の左右の頸動脈の部分に当たり、かつ、磁石2c及び2dは首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置に当たる。これら磁石2a～2dはリング1上に固定されているので、上記の位置からずれることはなく、所定位置に確実に保持される。

【0021】

また、磁石2a及び2bが首の前方の左右の頸動脈の部分に当たるので、血液の粘稠度を下げて脳血栓等の予防に役立ち、磁石2c及び2dは首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置に当たるので、肩や首の凝りをほぐすのに役立つ。

【0022】

ところで、上記の磁気利用健康具を人体の首の後ろ側から首回りに嵌合したので、図4に示すように、チェーン4及び止め具5が首の前側にくる。このため、チェーン4や止め具5を装飾の一部とすることができる。

【0023】

次に、この発明にかかる磁気利用健康具の他の実施形態について図5に示す。

これは、リング11の磁石を固定する位置にそれぞれ凹所12を設け、ここに磁石13を配するものである。この磁石13は、凹所12に接着剤を用いて直接固定してもよいし、また、樹脂等のケースに入れて凹所12に固定してもよい。このようにすれば、使用する部品点数をより減らすことができる。

【0024】

また、磁石13は、リング11の内径面から突出しないように設けてもよいが、図5に示すように、リング11の内径面から突出させてもよい。この場合、磁力による効果に加え、指圧の効果も期待できる。

【0025】

【考案の効果】

この考案によれば、上記の磁気利用健康具は、湾曲し、その両端が対向している弾性のあるリングに磁石を取り付けたので、従来の磁気利用健康具より部品点数を減らして構造の単純化を図ることができる。

【0026】

また、磁石をリングに固定したので、使用時、首の動きや外力によって磁石のいるべきツボからずれるのを防止することができる。

【0027】

さらに、磁石を4箇所設け、そのうち2個の磁石が左右の頸動脈の部分に当たり、また残りの2個の磁石が首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置にあたるので、血液の粘稠度を下げて脳血栓等の予防に役立ち、かつ、肩や首の凝りをほぐすことができる。

【0028】

さらにまた、人体の首回りにリングの大きさを調節しながら嵌合させてリングの両端部を連結する連結部材を設けたので、使用中に首回りから外れたりずれたりすることがなく、しかもその状態において、磁石を確実に保持することができる。